

ころばん体操 出前講座 迫公民館

平成28年10月6日(木) 13:30~15:00

参加者 計21名 (男性3名 女性18名)

【講話】

I・「いつまでも自宅で暮らすために」・・・(在宅医療)

いちき串木野市包括支援センター 保健師 久保小百合

日本人の死亡率は・・・？ 会場に質問

人は必ず亡くなる 100%の死亡率です。どこで最期を迎えたいか、どんな生活を受けながら最期を迎えたいか一人一人がこれを機会に考えてみてください。健康年齢は、だいたい10年と言われています。地域で支え合って元気で自宅で過ごしていけることが大事です。が介護が必要になってしまう事もこれから少し考えてどこでどう暮らしたいか元気な時に考えておいてほしいと思っています。

市が行った地域のアンケートでも自宅で最期まで暮らしていきたい人が41%、考えたことがない人36.3% 病院の人は11%でした。やはり自宅で最期まで暮らしたい人が多いです。

II・ 「がんばりすぎない介護を応援します」

～退院支援について～

いちき串木野市医師会 在宅医療・介護連携推進事業

コーディネーター 南新敦子

退院に向けて入院中から院内スタッフ、在宅関係スタッフが連携を取り在宅生活への準備を支援します。ご家族の介護負担がすこしでも軽くできるようにサポートしていく相談も受けています。介護度や高い患者さんや医療が必要な時でも、訪問看護等を利用しながら自宅生活を続けられるようサポートしていきます。家族や、ご本人の想いに沿って在宅での生活を希望され退院された事例を聞いて在宅支援のイメージを知っていただきたいと思います。



参加者の声

- ・いつまでも元気で過ごしていきたいと思っています。理想だけど・・・無理かな
- ・弟が訪問看護を受けているところです。本当によくしてもらって助かっています。
- ・今日の話で介護されていた娘さんはいくつ位の方だったんですか？
- ・介護の費用も知りたかったです。
- Q: 介護費用は、介護保険サービスでの範囲内で費用になりますので施設入所費用よりかなり安いです。
- Q: 娘さんは60歳前後の方でした。

事例の方の状況など興味深く聞いていただき質問もいくつか出して頂きました。また訪問看護の利用についてのお話も聞かせて頂き貴重な時間となりました。